

2023 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長
高等学院同窓会理事長

研究代表者氏名 [境野史人]

学年・組・番号 [1 年 E 組 29 番]

研究課題：ポストコロナ時代の観光地対馬に関する研究

(英文) A research on Tsushima as a Tourist Site in Post-pandemic Era

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200~400 字で記入してください)

数年前まで対馬に来る韓国人観光客の数は増加傾向にあり、2018 年には韓国人観光客は年間 40 万人となった。しかし、2019 年に日韓関係が悪化すると観光客は激減し、新型コロナウイルスの流行により 2020 年からは航路が絶たれ、国境は閉ざされてきた。このような中、今年 2 月に釜山—対馬間の定期便が復活し、6 月には毎日運航となることが決まった。今日の日韓関係は好転しており、対馬に韓国人観光客が戻ることが予想される。しかしながら、2019 年以前のオーバー・ツーリズムの状態に戻ることを望まれているわけではない為、対馬では韓国人観光客の受け入れをめぐる模索が始まっている。そこで、本研究ではポストコロナ時代の対馬の観光について調査し、住民の生活と調和した観光地復興の可能性を探究することを目的とする。具体的には、日韓関係悪化前の観光客の状況とコロナ禍の状況について統計資料などを利用して調査する。その上で夏期には対馬と釜山を訪れ、主要観光地での観光客や日韓交流イベントの活動の現状を調査するとともに、対馬の韓国人受け入れ態勢や、今後の観光の在り方について、対馬市役所や観光物産協会での聞き取り調査を行う。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200~400 字で記入してください)

資料や、対馬・釜山への巡検を通じた調査を行った。その結果、対馬の観光の課題として、観光消費の維持に向けた対策、特にコロナ禍での経験を踏まえて、リピーターを増やす必要があることが分かった。また、対馬は古くから朝鮮半島との交流をもつことから異国情緒あふれる街並みなどの観光資源を有する一方で、対馬独自の魅力の発信が不足していることで韓国人を初めとする観光客に対馬の本当の良さを伝えられていないということも問題点である。これを解決するためには、まず、安全・安心な近場のマイクロツーリズムの促進を目的とする政策を掲げ、リピーターを獲得するための鍵となる食や体験、宿泊プラン等を磨き上げる必要がある。また、以前より多くの人に対馬でくじの良さを知ってもらいたいので、多種の言語を対応した、韓国人を含む外国人観光客に積極的に対馬に関する情報発信をしていく必要があると考えられた。得られた研究成果は本校の学芸発表会で発表した。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 1 年 E 組 境野史人

研究分担者 1 年 C 組 鈴木琢磨 1 年 C 組 韓智斌

担当教諭 柿沼 亮介

(受給額： 30000 円)

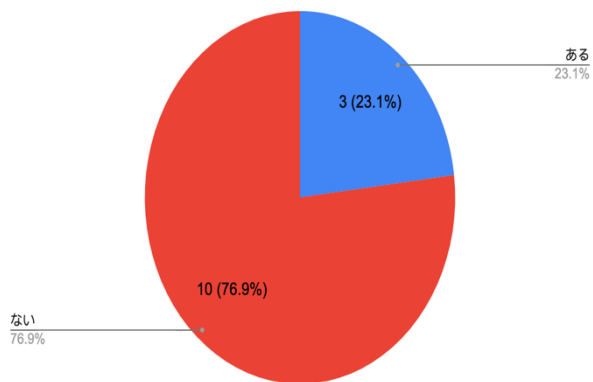
※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



対馬に以前訪れたことがあるか



対馬で購入したお土産

